

MEMBER COMPANY INTERVIEW

Vol.6

昭和初期、福岡の街に洋髪文化を伝えて以来
一世紀にわたって多くの美容のプロを育て続けてきた
大村文化学園。

「一人前の技術者である前に、一人前の社会人であれ」
という建学の精神のもと

教育理念の『一に人格、二に技術』に沿って
徹底した全人教育を実践されています。

それは、アスリートとして、社会人として
デュアルキャリアを目指す、シーズアスリートの
理念にも通じることは、言うまでもありません。

学校法人 大村文化学園
大村美容ファッション専門学校

理事長

大村 陽之介

Profile

おおむら・ようのすけ ー 1964年、福岡市生まれ。立正大学を卒業後、
ML美容室を経て、大村文化学園に経営参加。2009年、三代目理
事長に就任し、現在に至る。プライベートでは、モータースポーツ
(マーチカップ) やゴルフなど、幅広い趣味を楽しむライフスタイル
が信条の趣味人。

ー シーズアスリート草創期からご支援いただき、心より感謝申し上げます。

先代理事長の父が、シーズアスリート創設の志に共感したようです。当初は、私も漠然と「福祉支援かな」と思っていたが、実際にシーズアスリートの皆さんと触れ合う中で「これはよくあるボランティアではない」と実感しました。本気で一流をめざすパラアスリートの人生をみんなで応援するプロジェクトと理解してからは、支えるというより「支えさせてもらいたい」という気持ちになりました。

ー 貴校はのべ2万人を超える卒業生を送り出してこられました。

私たちの歴史は、1929(昭和4)年に祖母の大村トミが、福岡で2番目となる洋髪専門「ML美容院」を福岡市新大工町(現在の唐人町)に開店したことに始まります。屋号のMLは、恩師マリールイズ先生の頭文字から名付けたそうです。やがて祖母に教えを請いたいと願うお弟子さんが増え、1954(昭和29)年に大村美容専門学院を創立しました。その後、全人教育を実践する美容師養成校としての基盤づくりを進め、父が2代目理事長だった1992(平成4)年、学校法人大村文化学園を設立。さらに、ヘアデザイン以外のメイクやファッションへとすそ野を広げ、2009(平成21)年、私が3代目理事長に就任しました。

現在はトータルビューティーの総合教育校として、上質な専門教育の実践に取り組み、2023(令和5)年には大村グローバルビジネス専門学校を開校して、幅広く総合教育事業を展開しています。

原点となる学校創立から72年目。この間に2万人を超える若者が巣立ちました。祖母が踏み出した一歩から、多くの若者の人生が始まったことを思うと、感無量です。

ー これまで教職員の皆さまや、大村理事長が会長を務められている一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会で、講演の機会をいただきました。

副島正純さん(車いす陸上)の話を聴いて、「できないことは数えず、できることを数える」など前向きな考え方のヒントをいただきました。また、事あるごとにお会いするメンバーの皆さんとの触れ合いに、いつも刺激をもらっています。協会にシーズアスリートを紹介する際には、「とにかく彼らの話を聴いてほしい」と伝えました。参加者にとっても印象深い機会になったようです。

人は、足りないことに気を取られて不満を口にしがちですが、それでは創造力など生まれません。パラアスリートの皆

『一に人格、二に技術』を
実践し続けてきた、72年

さんの、限られた条件や環境の中でベストを尽くすにはどうすれば良いか、どんな工夫をしようかと、いくつもの壁を乗り越えて現在の活躍につなげてきた実験は、私たちに大きな示唆を与えてくれています。

― 貴校は、『一に人格、二に技術』を理念に掲げ、「一人前の技術者である前に、一人前の社会人であれ」という考えを、徹底して実践されています。

本校は教育目標を「業界を牽引する学生を育成する」と掲げ、勤務先のお店や業界にとって役立つ人材の育成をめざしています。最優先するのは、「学生を立派な社会人に育てること」です。学生には、社会に出て仕事に専念できるよう、早くから社会マナーを身に付けさせ、アイデアやパワーを存分に発揮できる考え方やスキルを磨く機会を提供しています。大切な存在として職場に受け入れられる、人間的魅力を培ってほしいからです。

そのため、理念である『一に人格、二に技術』に沿って、人格形成と回数理論に裏打ちされた技術教育を徹底します。カリキュラムには検定や資格試験も含まれますが、資格取得は一つの目標で、夢を叶える通過点に過ぎません。大切なのは、夢に向かって「どんな自分になりたいか」を明確にし、努力すること。努力を続けるうちに「夢」は少しずつ形を変え、より具体的に進化します。一步一步前進しながら成功体験を積み上げていく。そんな人生を歩んでほしいのです。

― 貴校が現在取り組まれている、オオムラプロジェクトについてお聞かせください。

オオムラプロジェクトのテーマ“不易流行”は、俳人・松尾芭蕉が奥の細道の旅の途上で体得した概念です。その意味は「変わらないものの中に新しいものを取り入れていく」。つまり「不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、変化

を知らなければ新たな進展がない」とも言い換えられます。かのダーウィンも、名著『種の起源』の中で「最も強い者が生き残るのではな



大村の「0」をモチーフにした大胆なデザインの校舎は、福岡の優れた建築としても知られています。



く、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」と記しています。いつの時代も、変わることのない普遍的な真理の中に、変化を恐れず進化していく勇気と感性を持ち続けたいですね。時代によって変化する新たな視点や価値を融合させ、柔軟かつしなやかに社会に貢献できる人材を育成するのが私たちの使命。“不易流行”は、本校の存在意義を示す言葉だとらえています。

― 具体的には、どのような施策を進めていらっしゃいますか。能動的に学べる習慣形成をめざしてカリキュラムを構築しています。人格形成に大きな影響を与えるのは、他者との上質な関わりです。卒業後はお客さまや上司や先輩などさまざまな方々と関わりながら、気づき、学び、人間力を培っていきます。その際のコミュニケーションが単なる会話に留まらず、対話・共感・理解に深まるような関わり方であってほしい。そのために、受け止める感性や考える力、実行力を養う取り組みを行っています。

また、「生きる力」を体得するキャリア教育を通じて、職業意識の醸成を図っています。学生の悩みや迷いを丁寧にヒアリングしながら、新しい暮らしの中で精神的な安定感が得られるよう、生活指導に力を入れています。そして個々の持ち味を引き出しながら、国家試験合格や外部コンテスト入賞など具体的な目標を設定・共有し、達成に向けて実践的なアドバイスやサポートを行います。インターンシップも

全学科で積極的に取り入れ、学生の頃から「社会人」としての意識を根付かせていきます。

校内では、2年生がファシリテーターとして1年生と関わる機会を日常的に設け、先輩と後輩が気軽に話せる風土づくりを心がけています。ファシリテーターは、グループが協力して共通目的を理解し、目的達成のための計画遂行を支援する存在。多様な意見や考えを公平に扱い、中立の立場からめざす落とし所に参加者たちを誘導していく。こうした取り組みを通じて、リーダーシップやバランスの取れた人間力を育てます。

― バリ2024大会では、現地へ応援に駆けつけていただきました。

ロンドン2012大会には行けないどころか、応援ツアーがある事も知らなかったので、TVで中島会長が応援する姿を見てとても羨ましかったです。念願が叶ってとても嬉しかったです。会場中に轟く大歓声のもと最高のパフォーマンスを体現するメンバーの皆さんの姿に、形容できないほどの感動を覚えました。

“熱中”する姿から学ぶ 夢を追い続ける努力 そして勇気と感動



プロ仕様の最新設備が揃うハイセンスな教室。

私は好きなことに熱中するオタク気質などがあります。だから、その道を究めた人の話を聴くのが大好きで、知らない世界に触れるのが楽しくて仕方ありません。パラアスリートの皆さんは24時間ずっと競技のことを考えています。そして、現状に満足・慢心することなく、さらに進化しようとする。その姿はとても美しく、頼もしいです。

パラリンピックは、そんな一流のパラアスリート同士が戦う最高の舞台です。皆さんの懸命なパフォーマンスを見ながら、自分と何が違うのか、次につながる学びは何か、そんな気持ちで観戦していました。

― “熱中”が、学生の皆さんにとっても、シーズアスリートのメンバーにとっても、共通のキーワードのようですね。

熱中できる人生は素晴らしい。一流のトップパラアスリートをめざして努力する皆さんの一挙手一投足から、私たちは多くを学びます。心から応援していますし、全身全霊のプレーには喝采を贈ります。これからも、夢を追い続ける努力、勇気、感動をともに体感させてください。



COMPANY's Profile

学校法人 大村文化学園
Omura Beauty Creates

本社所在地

福岡県福岡市中央区黒門 2-6 アメリカ領事館通り

事業項目

・大村美容ファッション専門学校
・大村グローバルビジネス専門学校
・O.designs